



学校だより
ながや

今年度も子どもたちの様子についてホームページを活用してお知らせします。月1回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。

学校ホームページ

QRコード



「校長先生、さようなら」

校長 神田 敏之

朝、門のところで1年生二人がこのようにあいさつをしてきたので、もちろん「さようなら」と答えました。笑いながら顔を見合わせて、入っていきました。

二人で示し合わせて、「『さようなら』とあいさつしてみよう」と考えたようです。1年生も学校に慣れてきて、このような軽いユーモアを言えるようになってきました。

このようなクスッと笑えてしまう誰も傷つけないユーモアは、人間関係づくりの潤滑油になります。しかし、学校生活の中ではそうでないこともあります。

生活の中では、いろいろうっかり失敗してしまうことがたくさんあります。下校のときに、門で見送ることがあるのですが、朝のときの調子で「さようなら」というつもりで「おはようございます」と言ってしまう子どもがときどきいます。気が付いて「まちがえちゃった」と照れ臭そうに言う場合もありますし、「ちがった、さようなら」と言い直す場合もあります。

失敗したときに軽く受け流して「まあいいか」と終わりになれば、それでよいです。こういった場面で見ている周りの子どもがいわゆる「つつこみ」をいれて、からかったりすることがあります。また、その場にいない人へ「さっき、〇〇だったんだよ」と失敗を言

いふらすことや、本人に「前に〇〇したよな」といじることもあります。

こういったことを軽く受け流して、気にしないということができればそれですみます。受け流すことができずに嫌な思いをしたら、それをどうするかは自分で判断をすることです。相手に自分の気持ちを伝える、がまんをして相手には何も言わない、自分では直接言えないので、大人の人に相談するということが考えられます。

大人が先回りをして子ども同士のトラブルが起きないように環境をつくることはある程度できます。しかし、放課後の公園などの遊びに行った先でトラブルになることがあります。

大人がいない場所でもトラブルが起きたときの対処方法を子どもに身につけられるように、まずは大人と一緒に解決の仕方を学び、子どもだけでも解決ができるようにしていくことが理想です。このようなときの「解決」というのは、自分の言いたいことを言って、相手に謝らせるということではなく、客観的に起きたことを振り返り、どうすれば同じようなことが起きないかを考え、それに照らし合わせて自分の行動を変えていくことです。相手の考えや行動を外から変えることはできません。行動は、自分が変えようと思って変えるものです。自分の行動を振り返った時に、次はこうしようと考えてことが「自分のリーダー」を働かせていることになります。